

# 長久手市の公共施設等について



まちづくり、  
まずは笑顔で  
こんにちは

H29.8.26公共施設のあり方市民ワーキング 長久手市 総務部 財政課

# 1. 本市の公共施設の現状

## 長久手市の公共施設の現状

施設名	竣工年度	築年数	備考
市役所本庁舎	昭和42年	50年	H15年度耐震改修済
長久手小学校	昭和44年	48年	
市役所西庁舎	昭和49年	43年	H20年度耐震改修済
長久手中学校	昭和49年	43年	H28～29年度大規模改修中
西小学校	昭和51年	41年	H32～34年度大規模改修予定
消防庁舎	昭和57年	35年	H34年度～広域化予定
北小学校	昭和58年	34年	H29～30年度増築工事予定
杵ヶ池体育館	昭和62年	30年	
中央図書館	平成4年	25年	
文化の家	平成9年	20年	H28, 29年度大規模改修済
福祉の家	平成14年	15年	再整備構想策定済

## 1. 本市の公共施設の現状

これまでは、市の公共施設の現状や今後の維持管理や更新・修繕等に係る費用などをまとめたものは無かった。



全国で道路や橋、トンネル、公共施設などで老朽化が原因の事故が続発した。



この問題が表面化し、国(国土交通省)は、「インフラ長寿命化基本計画」を策定。(H25年11月)

## 1. 本市の公共施設の現状

地方公共団体でもインフラ長寿命化計画（行動計画）、つまり、公共施設等総合管理計画を策定することが求められた。



全ての地方公共団体に、平成28年度末を期限として、総合管理計画の策定を要請（H26年4月）



平成28年度末、本市においても公共施設等総合管理計画を策定した。

# 1. 本市の公共施設の現状

## 【公共施設等総合管理計画とは】

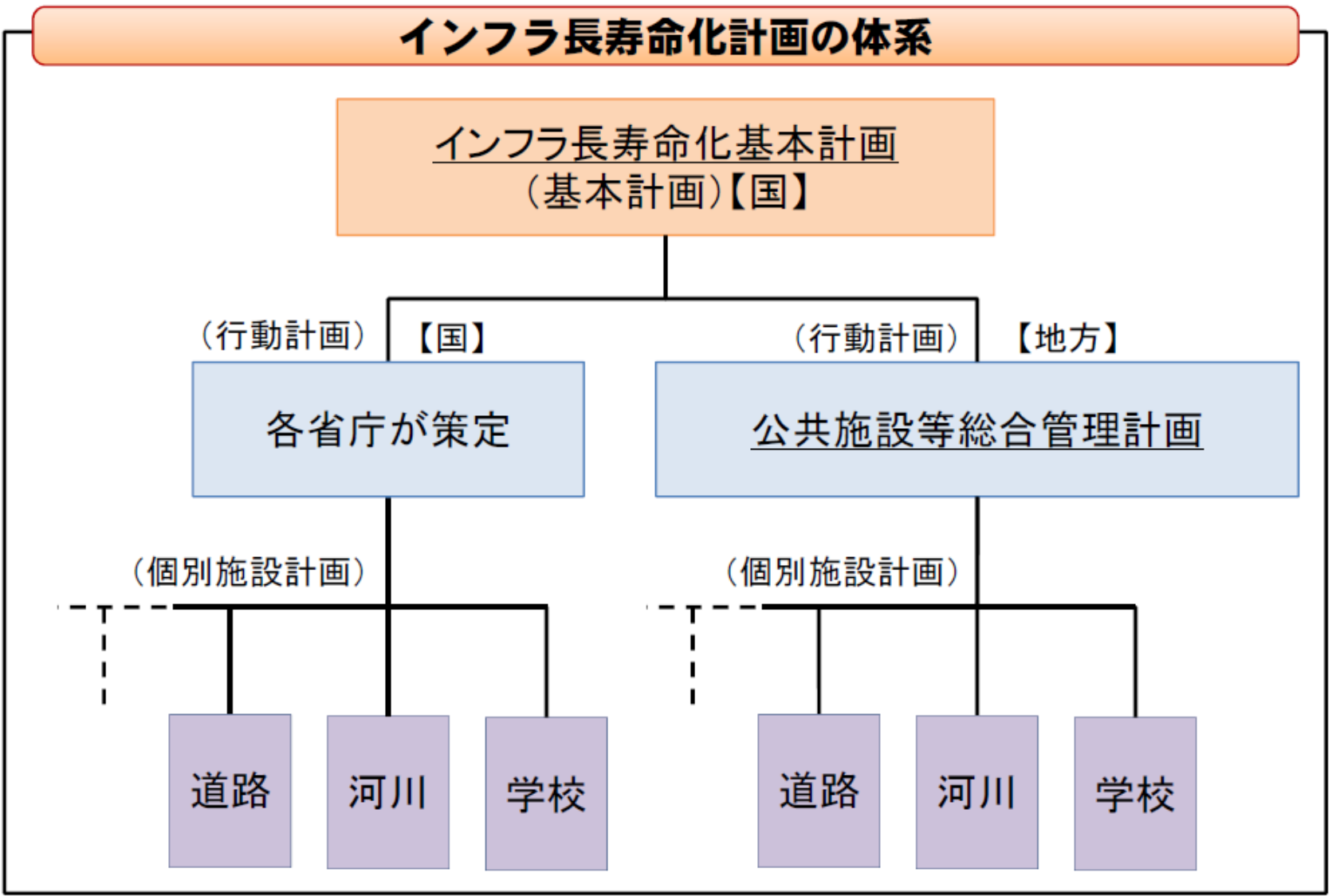
- ・公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための計画。

## 【計画の目的】

- ・将来発生する公共施設等の更新需要に備えるため、長期的な視点をもって公共施設等の更新や長寿命化対策を計画的に行うとともに、所要の財源の確保、財政負担の平準化を図る必要がある。

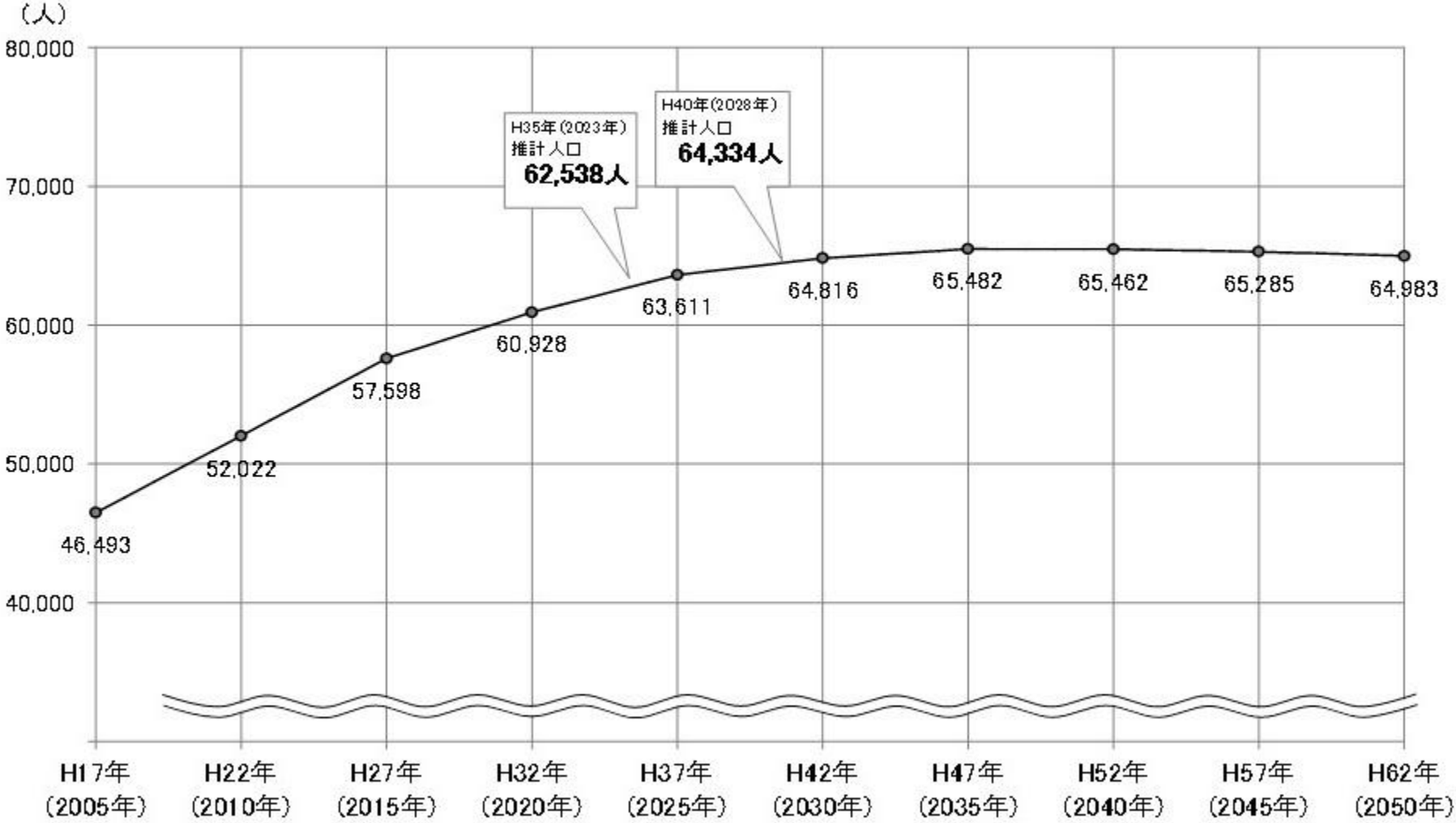
平成29年度は、更新版を策定する予定。

## 2. 公共施設等総合管理計画について



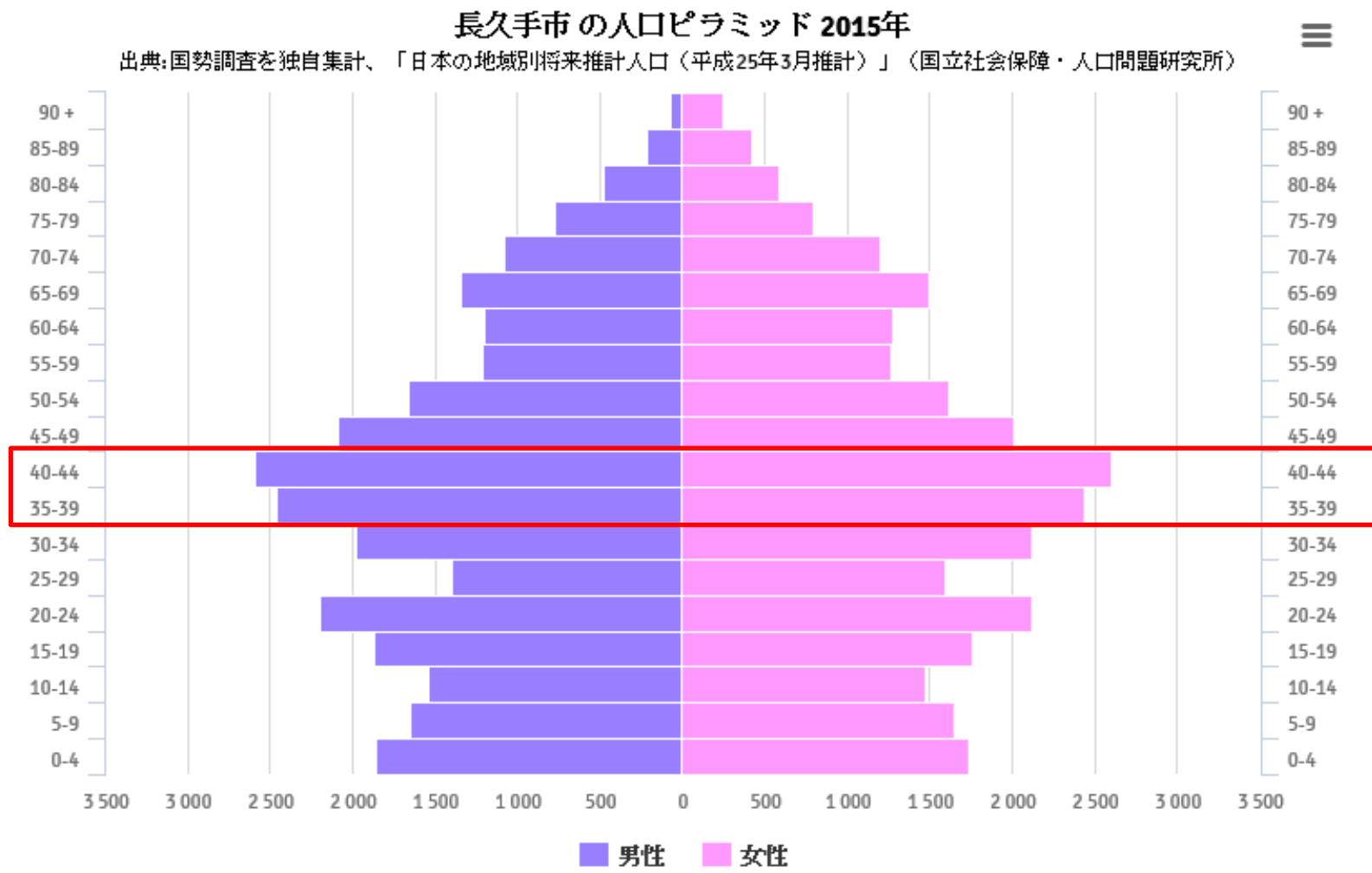
## 2. 公共施設等総合管理計画について

・2035年～2040年頃の約65,000人をピークとし、以降は緩やかに減少すると推計されています。



# 2. 公共施設等総合管理計画について

・働き世代(30~49歳)及び子ども世代(0~9歳)が多いのが特徴です。

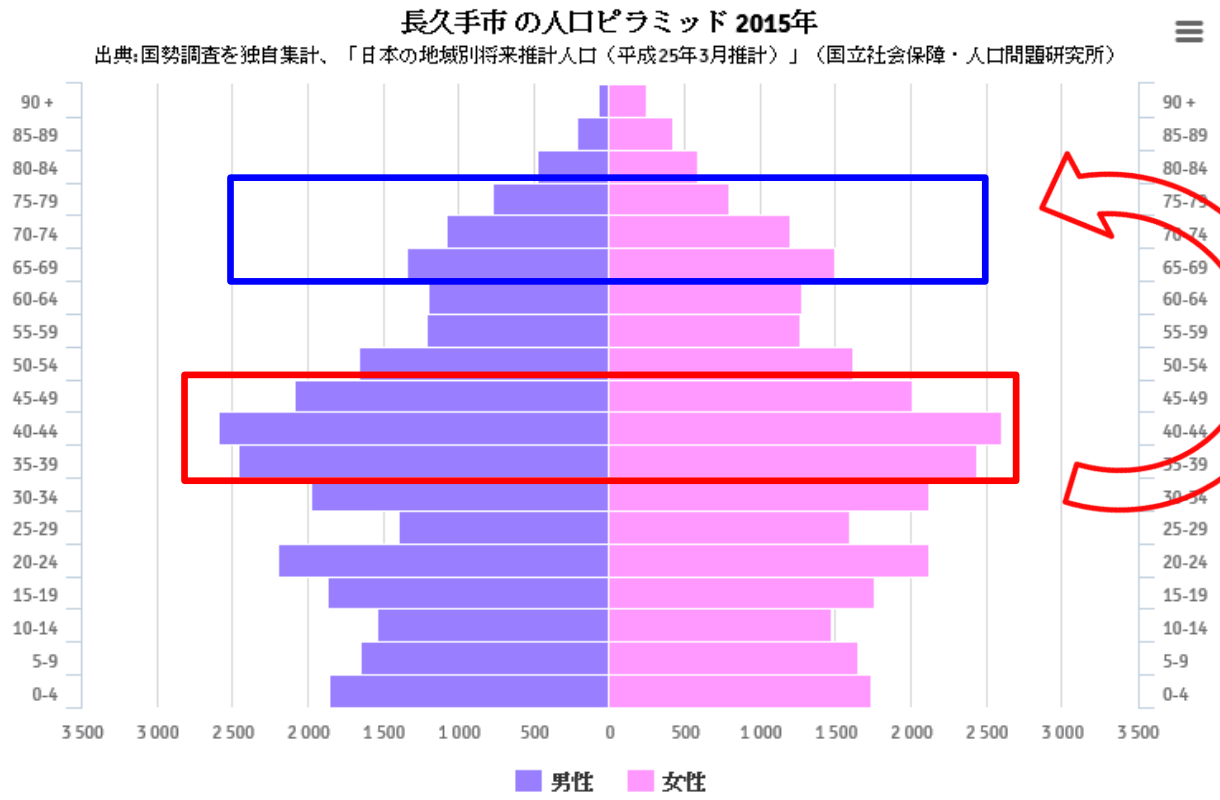




# 2. 公共施設等総合管理計画について

## 本市の人口構造の変化

長久手市の人口ピラミッド(5歳階級別人口)



しかし、2050年頃には後期高齢者に！

超高齢・人口減少社会の課題は、現役世代も考えなければいけない問題

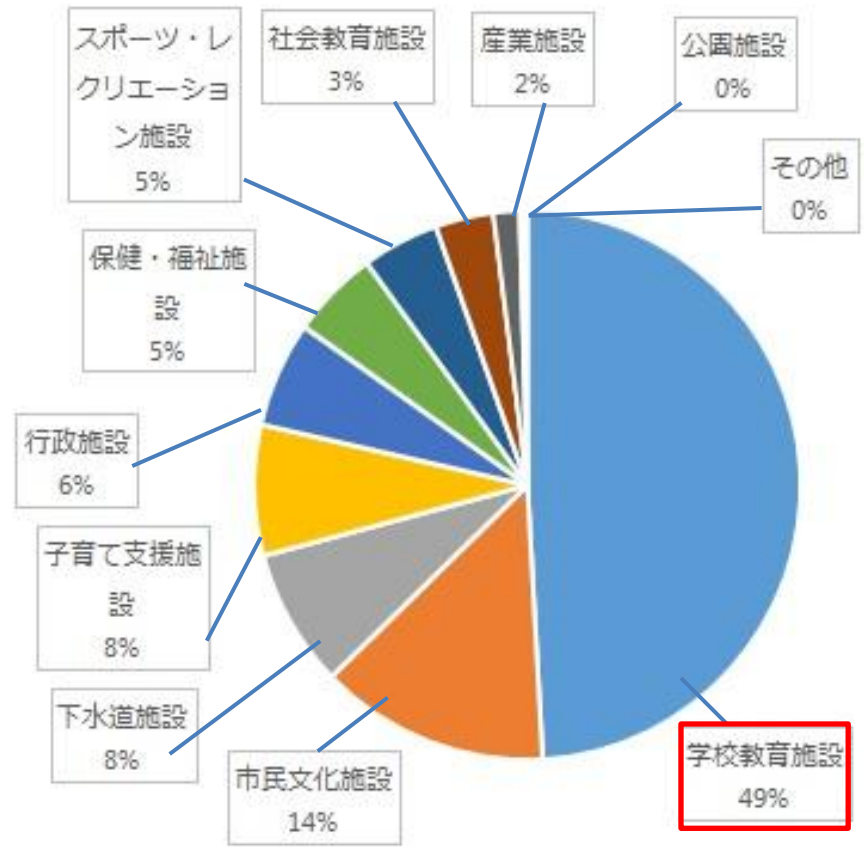
○人口の割合が多い現在35歳～54歳の年齢層が、2050年頃には後期高齢者になっている。

## 2. 公共施設等総合管理計画について

- 本市の公共施設の保有量は、合計で約151,998㎡です。うち、学校教育施設が全体の49.1%、市民文化施設が全体の13.6%、下水道施設が全体の8.1%を占めています。

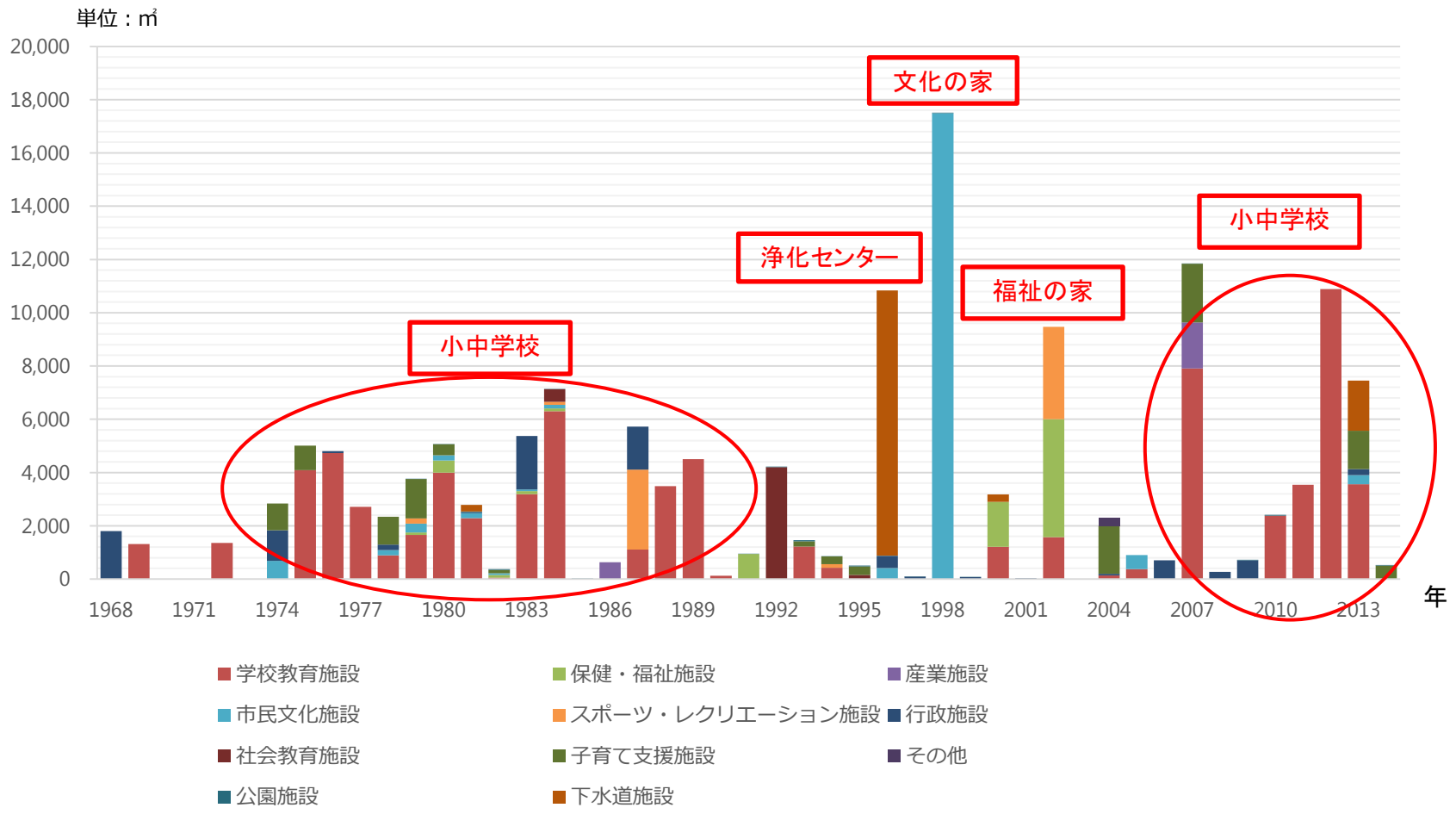
施設(大)分類	面積(㎡)	構成比
学校教育施設	74,651.00	49.1%
保健・福祉施設	7,917.10	5.2%
産業施設	2,361.00	1.6%
市民文化施設	20,643.00	13.6%
スポーツ・レクリエーション施設	6,914.06	4.5%
行政施設	9,510.00	6.3%
社会教育施設	5,204.00	3.4%
子育て支援施設	11,746.00	7.7%
その他	317.00	0.2%
公園施設	354.21	0.2%
下水道施設	12,381.00	8.1%
合計	151,998.37	100.0%

(\*)複合施設は、用途別に分けて計上。



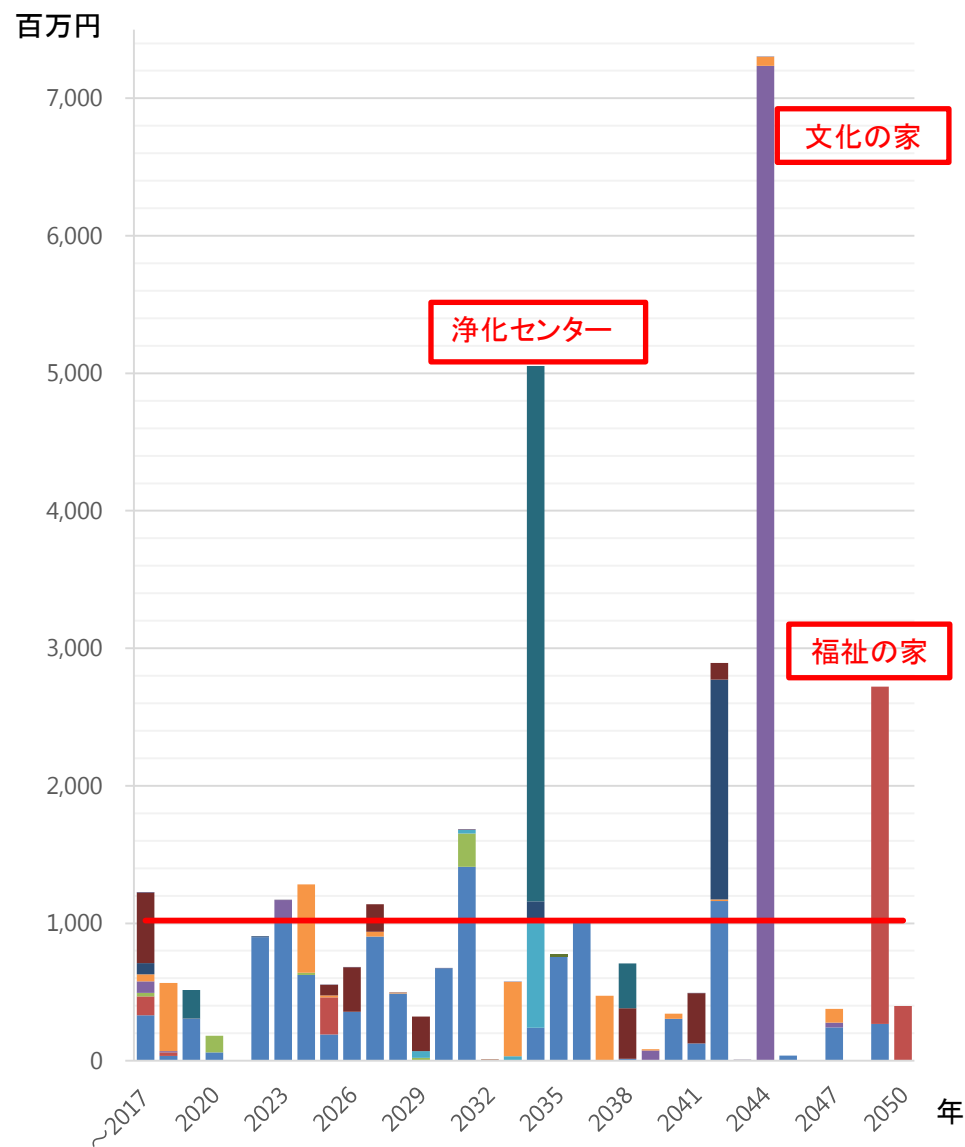
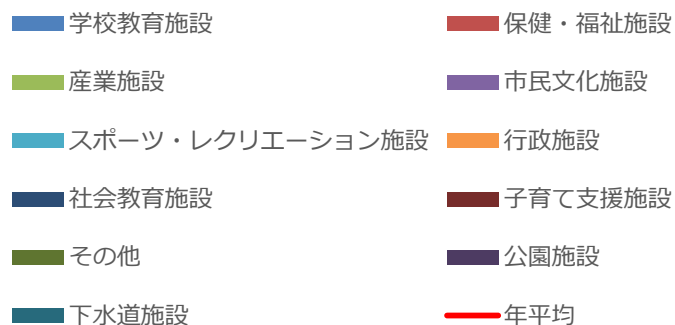
# 2. 公共施設等総合管理計画について

- 1970年代から1980年代にかけて、学校教育施設を中心として集中的に施設が整備されました。それらの施設の多くが完成後30年以上経過し、老朽化が進行しています。



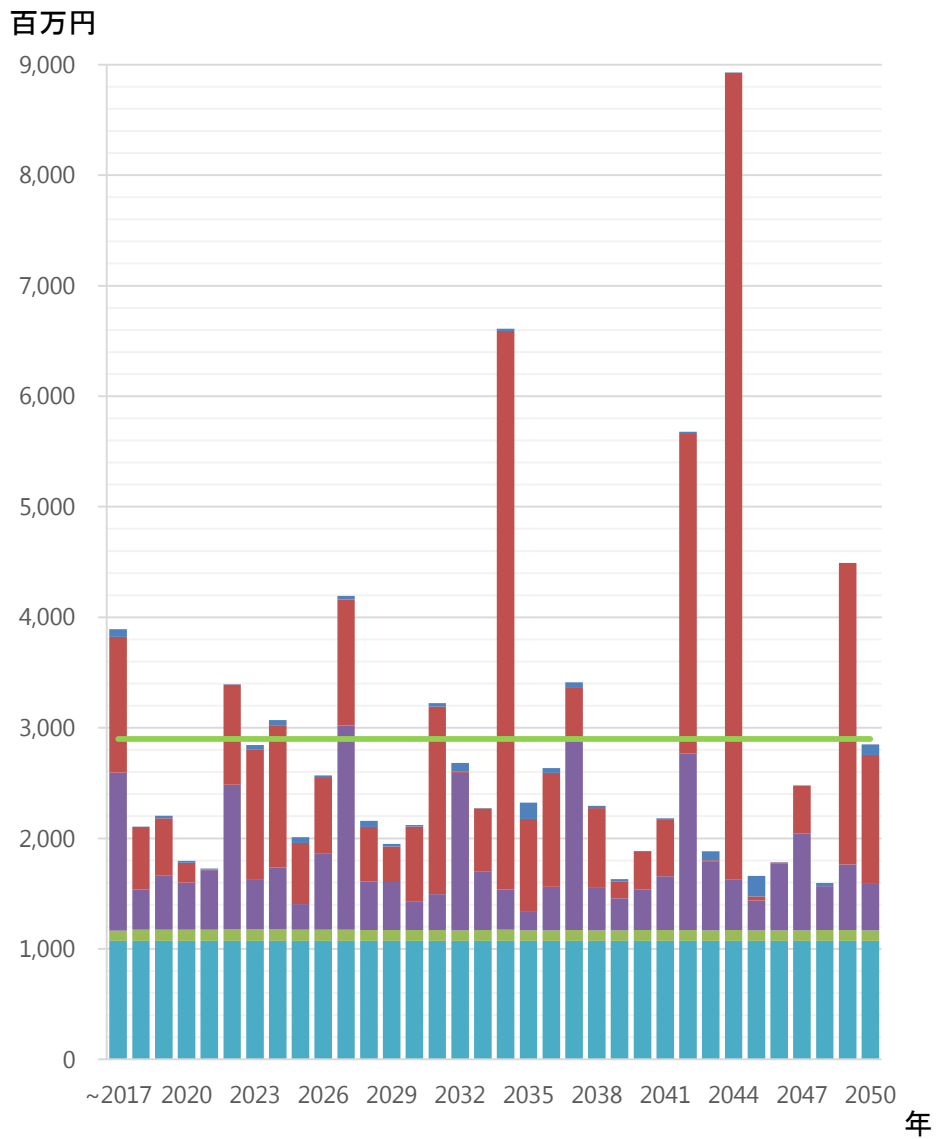
## 2. 公共施設等総合管理計画について

- 2022年から約10年間は、学校教育施設の更新が集中するとともに、1970年代後半から1980年代前半に設置された子育て支援施設の更新時期が訪れます。
- それ以降は、長久手浄化センター、中央図書館、文化の家や福祉の家などの大規模な施設の更新時期が訪れるたびにピークを迎えます。



# 2. 公共施設等総合管理計画について

- ライフサイクルコスト(LCC)は、生涯費用という意味です。
- ライフサイクルコストの考え方を踏まえ、計画期間で発生する運用管理コスト(管理運用、経常的修繕、修繕)及び解体再利用コストを含めた、期間コスト推計を行いました。
- 期間コストの総額は約985.3億円となり、年平均では約29億円の費用がかかるものと推計されます。



## 2. 公共施設等総合管理計画について

全国の多くの自治体では、人口が減少し、税収が減り始めていることから、公共施設の統廃合など、総量削減を重点に置いた計画を策定している。

### 本市では...

- ・2035年頃まで人口が増加する見込み
- ・今後も小中学校の増築や子育て支援施設を充実させる必要がある
- ・老朽化した公共施設が少なく、直ちに統廃合をする必要がない
- ・各小学校区に地域共生ステーションを整備する必要がある

etc.

## 2. 公共施設等総合管理計画について

### 3. 公共施設等の管理に関する基本的な考え方

**基本方針1** 誰もが安全で安心して利用できる公共施設等を目指します。

耐震化や、老朽化対応、バリアフリー化の推進等により、誰もが安全で安心して利用できる公共施設等を目指します。

**基本方針2** 公共施設の更新時に機能の複合化を前提に検討するとともに、公民連携の促進や、広域連携などにより、トータルコストを縮減します。

長期間のライフサイクルコストを考慮した施設の維持管理を行うとともに、公共施設の更新時に機能の必要性を勘案のうえ、複合化を前提に検討するほか、公民連携等による施設管理、広域連携による施設運用を行うなど、新たな手法を検討することにより、トータルコストの縮減を目指します。

**基本方針3** 将来計画に基づき、財政負担を平準化し、計画的に基金を積み立てます。

公共施設等の将来にわたる更新等に必要とされる金額を推計し、長寿命化等により財政負担を平準化するとともに、財源不足が生じないよう、基金の積立てや起債の発行などを計画的に行います。

### 3. 本市の取組

ファシリティマネジメントは、計画策定後も市民の皆様に関わっていただく必要があります。

- ・公共施設ごとの費用対効果は？
- ・施設の使用料は適正か？
- ・施設の総量は適正か？
- ・地区ごとの公共施設の配置は適正か？
- ・施設は有効活用されているのか？
- ・個別施設ごとの更新をどのような方針で行うか

etc.

これらについては、計画策定後も継続的に市民の皆様と一緒に検討し、改善していきます。



### 3. 本市の取組

今後は...

- ・人口の動向を考慮し、公共施設等総合管理計画の更新シミュレーションを、市の財政計画と連携させ、維持管理費や大規模修繕、更新などの費用を、計画的に予算に反映していく必要がある。
- ・現在の公共施設が有効に活用されているのか、一部の人だけが使う施設になっていないかを検証し、時代やニーズの変化に合わせて、活用法を見直す必要がある。
- ・施設の更新時には、公民連携や広域連携などの手法による整備、管理、運営方法を検討していく。